

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年4月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103904
法人名	有限会社 ドリーム・ミソノ
事業所名	グループホーム 紫原
所在地	鹿児島県鹿児島市紫原4丁目34番31号 (電話) 099-250-2643
自己評価作成日	平成31年2月

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町1 6番A棟 3F302号
訪問調査日	平成31年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・高台にあり春になると道路沿いの桜や近くの公園の桜がとてもきれいで毎年、花見見物へ入居者様をお連れしたしております。
- ・近所に公園や学校、医療機関があり、大きな道路から少し入ったところにある為、とても静かで恵まれた環境に作られたホームです。
- ・学校の職場体験を受け入れたり地域の文化祭・夏祭り・運動会の見学を行うなど地域との交流を行っております。
- ・入居者様にはできるだけ、入居前と変わらぬ生活を送っていただきたいため、ご自宅で使用していた家具などをお持ちいただく事をお勧めしております。
- ・入居者様が日々楽しく有意義に暮らせるように努めております。
- ・施設内は広々とした空間があり、開放感があります。
- ・職員は月1回、内部研修を行ったり外部研修にも参加し自己研鑽に努めております。
- ・災害時の避難場所も近くにあり避難訓練を定期的に行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、市中心地から数キロの高台の住宅地に設置されており、周囲は中学校や公園、医療機関、商店、テレビ局、住宅等が密集しているが、幹線道路より少し入っているため、交通の騒音等も気にならず閑静な環境である。開設以来、自治会に加入して地域との交流に積極的に取り組んでおり、総会の出席や友人知人の来訪、買い物、地域のイベントの見学、ボランティアの慰問の受け入れ、認知症カフェの開催等、日常的に交流が図られて利用者の楽しみとなっている。

管理者及び職員は、理念に沿って利用者の誇りや尊厳、特性等を大切にしながら思いの把握に努め、利用者主体の生きがいのある暮らしの支援に取り組んでいる。利用者や家族からの意見や要望を常に聞き取る姿勢で接しており、出された意見等の内容を職員全体で協議して利用者主体のより良いサービスの実践に努めている。利用者や家族との信頼関係が構築されている。

管理者は、職員が日頃から気軽に意見が言い合える雰囲気づくりに努め、職員との信頼関係及び協力体制を構築している。日頃のケアの中やミーティング、カンファレンス時に意見や要望等を把握し、また、必要に応じて個人面談も行って悩み等を聞き取り、運営やサービスの質の向上に取り組んでいる。職員のスキルアップを図る施設内研修の実施やケアに対する助言・指導を積極的に行い、勤務シフトは可能な限り本人の意向を反映させている。また、外部研修の受講には職員一人一人の経験や力量、受講意思の有無等に配慮しており、法人本部の研修費の支給制度も充実しており、働きやすい職場環境が整備されている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事務所やホールなど目につく場所にあり、常に意識し共通認識を深めている。	利用者主体の支援を理念に掲げ、年度目標と共にホールや事務室に掲示し、また、パンフレット等にも掲載して共有を図っている。日頃から理念を意識し、ミーティングで研修の報告やケアの振り返り、意見交換等を行って、理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園の運動会や中学生の職場体験や夏祭りの見学に出かけて地域の人と触れ合っている。回覧板で地域の情報を共有している。	自治会に加入して地域の情報を回覧板等で把握し、文化祭や夏祭り運動会の見学や総会に出席している。ホーム主催の認知症カフェには多くの地域住民の参加が得られ、日頃の散歩時の会話や中学生の職場体験、施設見学の受け入れ、ボランティアによる慰問等を積極的に取り入れて円滑に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	施設見学や相談に来られた際に気軽に手にとりやすい所に、わかりやすい資料を設置している。また、運営推進会議時に、専門の方々よりお話をお願いしている時もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を実施し入居者様の状況やサービスの実際、外部評価の結果報告を行い、意見をもらいサービス向上に活かしている。また、内部研修の発表報告も行っている。	利用者、家族（毎回10人前後の参加）、民生委員、地域包括相談支援センター職員等が参加して定期的に開催している。ホームの現況や行事、ヒヤリハット事例等を報告し、併せてテーマを設定して研修も行っている。委員からは認知症ケアや防災に関する質問や意見等が活発に出されており、議事録は欠席の家族にも送付して内容を共有している。出された意見等は、職員全員で協議して業務の改善やサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政連絡事項は電話や市役所に足を運び迅速に対応している。地域包括の職員さんには運営推進会議に参加して頂いたり、紫原行事予定表にて事業所の近況報告をしている。	市担当職員には、日常的に介護保険や各種制度の手続き、施設運営に関する相談等を行い、助言・指導を受けるなど協力関係を築いている。市やグループホーム連絡協議会主催の会合や研修会に積極的に参加して、行政職員や他施設職員との意見交換に努め、業務やサービスの改善に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を実施し、理解を深めている。玄関の施錠は基本的には夜間のみとしている。	マニュアルを整備し、計画的な研修の実施や身体拘束適正化委員会を年6回開催して認識を深め、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。昼間は施錠は行なわず、鈴やセンサー等も活用しながら利用者の見守りや寄り添いに努めて安定を図っている。不適切な言葉づかいに対しては職員同士で注意し合い、意見交換等も行って拘束のない自由な暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待について研修を行い、入居者様の尊厳を損なわないケアに心がけ、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にて人権擁護委員会の方の講演に参加したり、内部研修にて理解を深めている。必要時は、その都度、関係者と話し合い活用できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、一語一句をわかりやすく説明を行っている。理解され納得できたかを確認し、契約や解約の署名・捺印をもらっている。報酬改定などあった場合は、文書でお知らせして了承を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、あまり活用はされていない。施設の相談担当者、解決担当者、外部に定めた第三者委員の連絡先を、重要事項説明書に明記して、説明・並びに玄関に掲示している。	日頃から見守りや寄り添いの姿勢に心がけて、利用者の想いや意見を会話や表情、独自のサイン等で理解に努めている。家族からの意見は来訪時や運営推進会議、アンケートの実施、家族会、意見箱等で把握している。出された意見は申し送りや日誌等で共有し、全員で協議してサービスの向上に取り組んでおり、家族にも対応状況を報告して理解を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の中やミーティング時に意見や提案を聞いており、その都度、解決に向けて取り組んでいる。	管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションに努め、日々のケアの中やミーティング時に意見や要望を聴取し、個別面談も実施して悩み等も把握している。出された要望等は全員で改善に取り組み、勤務シフトの作成にも職員の意向を反映させている。スキルアップを図るため、施設内研修を計画的に実施し、また、外部研修の受講には職員の意向や勤務時間にも配慮する等、働きやすい職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格所得による手当の支給や実績による評価をしていただく等、向上心を持って働くことができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間計画を立てて職員が持ち回りで様々な研修内容の資料を準備し勉強会を行っている。また、外部研修も案内を回覧したり参加できるように勧めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会の研修に参加したり、その他研修などに参加する事を推進し情報交換、交流の場を広く持てるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、要望や不安なことをお聞きし対応するようにしている。ご本人様への初回面談時は話しやすい、溶け込みやすい雰囲気を大切にできるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、ご家族の関係を確認、面会や電話連絡の際にコミュニケーションをとり、良い関係作りができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、ご本人とご家族が必要としている支援をお聞きした上で、その都度、利用可能なサービスを説明させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ができる事を活かせるようにお盆拭きや洗濯たたみなどをそれぞれの状態に合わせて役割を持てるように支援する事で、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族に近況をお伝えするが、ご家族も面会時や外出時に状態の変化に気づいた時は、職員にお伝えして頂くようにお話ししている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの深い物や大切にされている物を居室においている方もいらっしゃる。友人・知人の訪問は気軽に受け入れ、馴染みの関係の継続に努めている。	入所時に生活歴や家庭環境、地域との交流状況等を把握して、馴染みの情報を共有している。家族や友人・知人の来訪時には話しやすい場や雰囲気づくりに配慮し、本人の希望に沿って買い物や美容室、通院、墓参等を家族と連携して支援している。遠方の家族には機関紙や電話等で利用者の近況を伝え、電話や手紙の取り次ぎも行って関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が会話されたり、一緒に誕生会やイベントに参加して頂けるよう、支援させて頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもその後のご本人の様子をご家族に電話などでお聞きし、場合によっては相談にのったり必要に応じてアドバイスを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に本人様のお話を聞いたり、様子を観察してニーズを把握するように努めている。困難な場合は、表情や動作から読み取ったり、ご家族様から聞いたりして把握に努めている。	日頃から利用者の意向の把握に努め生きがいのある、その人らしい暮らしへの支援を家族と連携して取り組んでいる。各利用者の心身の状態に配慮しながら、意向に沿って趣味（音楽やテレビの視聴、ぬり絵、折り紙他）や家事（食器洗い、洗濯物たたみ他）の取り組みの個別支援にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人よりこれまでの生活内容をお聞きし本人のペースに合わせた生活が送れるように支援している。また、今まで使い慣れた家具や個人の思い出のあるもの（写真・布団）等を持ってこられている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状況や有する能力を把握した上でそれぞれの残存能力を生かした生活が送れるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様やご家族様の意向、職員や必要な関係者からの意見をお聞きし、カンファレンス時に意見交換を行い、介護計画に反映されるよう努めている。	本人・家族の意向や主治医の意見を基に担当者会議やケアカンファレンスを実施し、利用者主体のきめ細かな介護計画を作成している。ケアの実施状況は「介護日誌」「バイタルチェック」等に詳細に記録して共有している。利用者の状況の変動に対しては随時、計画を修正する等、実状に即した計画を作成して改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録して残し、特記事項などは毎日朝・夕の申し送り時に情報を共有し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの入居者様のニーズやご家族の状況などに合わせて、柔軟な援助ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の開催や地域の行事・消防署の避難訓練や救命救急講習会実施にて安全で豊かな暮らしを楽しむ事ができるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族の希望に合わせたかかりつけ医と連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援している。状態・症状に合わせご家族に報告・相談し専門医を受診して頂いている。	各利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での治療を支援している。訪問診療や訪問看護も実施され、他科受診については家族と協力して受診し、夜間や緊急時の医療連携の体制も築かれている。利用者の病状や受診結果は家族にも密に報告するなど連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常の中で気づく少しの状態変化は母体の病院の外来看護師に伝えて適切な受診が受けられるように連携を図っている。訪問看護師などをご利用されている方は、訪問看護師に、その都度、状態をお伝えし連携を図っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時、サマリーを提供したり、立ち会って情報提供を行っている。入院中は定期的に面会を行い、ご家族様や看護師・相談員と情報交換を行っている。また、母体の病院と連携を図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居者様の状態によってご家族・主治医・職員間で話し合いを行いご家族が納得のいくよう説明をしっかりと行いながら支援を行っている。</p>	<p>重度化や終末期のホームの対応については、利用開始時に指針を本人や家族に説明して同意を得ている。重度化した時点で主治医より病状が伝えられ、家族や関係者は十分に話し合って可能な限り希望に沿った支援を、主治医や訪問看護等とチーム体制を構築して取り組んでいる。外部医師を講師に重度化や看取り対応の研修を実施して、職員のスキルアップや不安の軽減に努めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年に一度の救急蘇生法の講習や事故発生時の対応については毎月の研修等で勉強会を行い、スムーズに行えるようマニュアルを作成し緊急時に備えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防署にいらし、夜間と昼間の火災避難訓練と地震の避難訓練を行っている。また、近所へも事前に連絡し協力を求めている。水や防災グッズ、担架をわかりやすい場所に設置しており、また、火災通報装置・スプリンクラーも設置している。</p>	<p>年2回夜間を含む災害時の通報、避難訓練及び消防署職員による研修を実施しており、地域住民や家族の協力体制も構築している。日頃から避難経路の確認や災害発生時のニュース等をもとに意見交換する等、防災への認識を共有している。スプリンクラーや火災通報装置を設置し、ヘルメット、防災頭巾、懐中電灯、ラジオ等の整備や飲料水や食料品、介護用品を備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を人生の先輩として尊敬し、個々に応じた言葉かけやご本人に確認してからの訪室などにより誇りやプライバシーを損ねないように対応している。	プライバシーの確保や個人情報の取扱いについては、計画的な研修の実施や意見交換を行って適切なケアの実践に取り組んでいる。利用者には常に敬意を持って接し、排せつや入浴、衣服交換時には人格や羞恥心等に特に配慮している。居室やトイレ、浴室等はプライバシー保護に配慮した構造で、ケア記録の台帳類も適切に取り扱われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中でコミュニケーションの機会を作り気軽に思いや希望を伝える関係性を築いていけるように努めている。自ら思いを伝えることが難しい方にはご家族からの情報や生活歴などで情報を把握し希望に沿えるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の今までの生活やペースに合わせた支援・対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご家族様が衣類をもってこられる。希望に合わせて衣類を選べるように支援している。希望により訪問美容の利用ができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や、時にはお弁当にて見た目やいっつもと違う味にて食事を楽しんでいただけるように努めている。また、個々の体調に好みに合わせて食事形態を工夫している。お盆拭きなどそれぞれの入居者様の能力に合わせて職員と協力しながら行っている。	疾病に伴う食事制限や形態、栄養バランス、嗜好等に配慮し旬の食材で調理している。利用者は談笑しながら食事し、食器洗いやテーブル拭き等は利用者も楽しみながら行っている。季節の行事食や代替品、手作りのおやつ、リクエスト食、家族との会食、外食など、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。利用者毎に食事や水分の摂取状況を把握し、口腔ケアもプランに取り入れて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事・水分摂取量を記録し、把握に努めている。摂取量が少ない方に対しては、言葉がけを行ったり、ご本人の好きな飲料水をご用意したり、状態によっては医師やご家族と連携を図りながら支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後に口腔ケアを必ず行っている。ご自分で行える方もさりげなく見守り仕上げ磨きは職員が行っている。ご自分で磨けない方に関しては声かけし職員が実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄のサイクルを把握し職員間にて共有し声かけや誘導を行っている。訴えがない方は表情やしぐさを察し対応している。また、立位保持が困難な入居者様もトイレ誘導が可能な方は職員2名対応にてできるだけトイレで排泄して頂けるよう支援行っている。	各利用者の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。利用者の身体状況に合わせた介護用品やケアの方法を、介護計画に反映させて改善に取り組んでおり、トイレ誘導や衣服交換時の言葉づかい等は、利用者の気持ちやプライバシーに特に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事前にラジオ体操などに参加して頂いたり、歩行できる方は日常生活にて、できるだけ歩行する機会を作るようにしている。15時のお茶の際、手作りヨーグルトを召し上がってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は週2回以上と決めているが、個々の状況やその日の体調などを考慮して支援行っている。	週2～3回の入浴を、利用者の心身の状態に配慮しながら支援しており、部分浴や清拭への変更や好みの温度、時間、入浴剤などを柔軟に、ゆっくりと気持ちよく楽しめるように取り組んでいる。入浴を渋る利用者には無理強いしないで時間や順番の変更、声掛け等を工夫して自発性を待ち、また、入浴後は水分の補給や皮膚疾患の手当を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や体調によって入眠時間を調整したり休息を促している。また、居室の室温・湿度・明るさなどの調整を行なうことで、できるだけ安眠して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬準備は2名の職員で必ずチェック表に記入している。服薬時にご本人の名前と日付・服薬箱の名前が合っているか確認行い確認表に記入し、服薬直前は薬袋の名前とご本人の名前と顔を確認後服薬する事で誤薬しないように努めている。また、薬の管理指導は担当薬局の薬剤師に指導頂いている。薬剤師と連携を図り情報共有を行い、服薬変更時など必要に応じて相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビを見たりボランティアの方によるカラオケ教室（参加したい方のみ）、隣の方や職員とおしゃべりなどを通して、ただ笑う事だけで幸せを感じられる瞬間を共有することで、少しずつ馴染の場所に感じられるよう支援している。月1回の誕生会（サロン）や行事にてケーキや催しものを楽しんで頂けるよう支援行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的にや敷地内で外気浴や体調に合わせた散歩を随時行っている。年に1~2回は2ユニット合同で認知症カフェやご家族様を招待して職員手作りの弁当やお弁当屋さんのお弁当を皆で一緒に食べて、いつもと違う雰囲気の中でのお茶や食事がとれるよう支援行っている。また、ご家族様の面会時に外出・外泊の機会が図れるように、支援・働きかけを行っている。	利用者の外出に対する意向は日頃の支援の中で把握し、健康状態や天候に配慮しながら、園周辺の散歩やドライブ、買い物、一時帰宅、墓参り等の外出を家族と協力して取り組んでいる。重度化により全員での外出は難しい状況になっているが、初詣や季節の花見、運動会の見学など、ホーム全体での外出も可能な限り実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物のご希望がある時は、ご家族様に相談して購入して頂くか、職員の方で購入するように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	必要に応じて電話を掛けたり、通話の取次など何時でも対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の明るさ、室温・湿度に常に注意し、冷暖房の調整やカーテンの開閉を行い、入居者様が過ごしやすい環境を整えるよう心がけている。また、季節感を出すため、七夕飾りやクリスマスツリーなど、入居者様と友に飾り付けを行い居心地よい空間づくりに努めている。	ホームはバリアフリーの構造で明るく、廊下やホールは余裕のあるスペースが確保されている。随所に利用者の作品や習字、イベント時の写真等が飾られ、清掃や空調、異臭等にも十分配慮して、和やかで清潔感ある空間となっている。ホール一角の対面式キッチンからは調理の音や匂いが伝わり、テーブルセットやテレビ、ソファ等の家具が利用者の動線や利便性に配慮して設置されており、利用者は好みの場所で平穩に過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の相性や心身状態・歩行状態などを考慮して机の位置や座席を調整している。また、入居者の状態によっては職員の近くにてゆっくりとテレビを見たりおしゃべりをして過ごされている方もいらっしゃる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご自宅で使い慣れたものを持って来てもらい、ご本人ができるだけ居心地よく過ごせるよう工夫している。季節の変わり目はご家族様に衣類や布団などの衣替えや整理を依頼している。	居室はフローリングに腰高窓の仕様で、ベッド、エアコン、タンスが備えてあり、利用者の意向を確認しながら清掃や整理整頓の支援に努めている。利用者は、家庭と同様に落ち着いて過ごせるように、家族写真や使い慣れた寝具、趣味のキーボード、小物等を自由に持ち込み、敬老の表彰状や自身の作品も飾って、その人らしい和やかな雰囲気のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・浴室には手すりを設置し、自立歩行やつかまり立ちができるよう支援している。また、居室やトイレ・浴室の入り口には、名札などをはりわかりやすいように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない